

内陸エリア

白石市 角田市 登米市 栗原市 大崎市
 蔵王町 七ヶ宿町 大河原町 村田町 柴田町
 川崎町 丸森町 大和町 大郷町 富谷町
 大衡村 色麻町 加美町 涌谷町 美里町



内陸部に完成した災害公営住宅（涌谷町）

内陸エリアは、太平洋に面していない宮城県内陸部の20市町村で構成されています。津波の被害こそなかったものの、栗原市で最大震度7を記録し、死者・行方不明者のほか、全半壊の住家が約10,000棟に及ぶ大きな被害を受けました。ピーク時には、約370の避難所が開設され、24,000人を超える被災者が避難していました。

平成26年度は、栗原市、大郷町、美里町で全ての災害公営住宅が完成したほか、ほかの地域でも災害公営住宅への入居が始まっています。また、津波により大きな被害を受けた沿岸部の海岸林を再生するため、内陸部でクロマツの苗木を生産し、それを沿岸部へ植栽する取り組みが進められるなど、内陸地域から被害の大きかった沿岸部への支援も続けられています。

一方で、放射線量の測定や風評被害の払拭など、東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故への対応に追われる市町村もあり、今後の課題となっています。



内陸エリアの被害状況

	地域合計	県内合計
死者	30人	10,530人
行方不明者	6人	1,255人
全壊	1,346棟	82,993棟
半壊	8,502棟	155,126棟

〔平成27年1月31日現在〕

応急仮設住宅入居者数

	平成24年3月	平成27年1月
プレハブ住宅	282人	0人
民間賃貸借上住宅	5,148人	2,834人
計	5,430人	2,834人

〔平成27年1月31日現在〕

災害公営住宅整備(事業着手)状況

	平成26年2月	平成27年2月
計画戸数	336戸	360戸
着手戸数	336戸	336戸
完了戸数	55戸	245戸

〔平成27年2月28日現在〕



被災した酒造会社を視察する知事（栗原市）



沿岸部の海岸林再生のため、蔵王町で栽培されたクロマツの苗木（蔵王町）

2014年2月27日 木曜日

名取市の被災農家が白石市で再起

(白石市)



名取市北釜地区でチンゲンサイの生産を行っていた桜井さん。津波ですべてを流され農業再開を断念した桜井さんに手を差し伸べたのは長年の友人であり白石市で「蔵王グリーンファーム」を経営している菊地会長でした。被災した農家と共に再起をかけたチンゲンサイの生産が行われています。

被災した農家と共に再起をかけたチンゲンサイの生産が行われています。

2014年4月17日 木曜日

2年ぶりの出荷再開！

(丸森町)

福島第一原発事故を受け、平成24年5月から続けられていた丸森町耕野地区のタケノコの出荷制限。この日、約2年ぶりに耕野地区の出荷制限が解除されました。出荷に当たっては、東北大学の協力により、検査機器を活用して放射線量測定の自主検査が実施できるようになり、より安全な出荷体制を構築することができました。



2014年6月18日 水曜日

繋がるカフェ 夢想庵

(登米市)



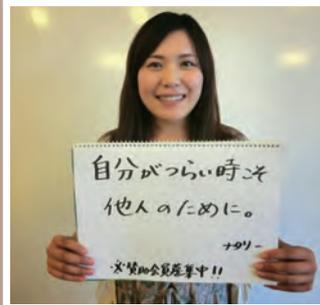
「柳津虚空蔵尊」の一角で「お寺 Cafe 夢想庵」を営む杉田史さん。支援物資を沿岸部の被災地に届ける支援活動も行っています。苦しい中でも前向きに頑張っている人々を目にして「人はたくましいものだということ

を大人たちが教えるべき。人間は崇高でたくましいものだから」と語ります。

2014年7月22日 日曜日

立ち上がれ！地元パワー

(村田町)



内陸部から沿岸部の支援活動を展開している「NPO 法人 ガーネットみやぎ」。理事長の澁谷直美さんは、慢性的な資金不足に悩みつつも、「自分がつらい時こそ人のために」をモットーに活動しています。

2014年10月26日 日曜日

「ふゆみずたんぼ」～水鳥たちと共生する古くて新しい農業

(大崎市)

震災復興と地域活性化のために大崎市が取り組む「ふゆみずたんぼプロジェクト」。冬の間も田んぼに水を張っておくという昔ながらの農法です。この田んぼで収穫したササニシキを使った新たな商品の発表会が、交流施設「醸室」にオープンした「ふつつつ食堂」で開催されました。



2014年11月30日 日曜日

復興の祈りをこめて大空へ

(大衡村)

日本の伝統文化である凧づくりや凧あげを通して、平和の大切さや物づくりの遊びの楽しさを伝える「スカイ・ハイ おおひら 2014 第3回みやぎ幸福凧あげ大会」。亡くなられた方への鎮魂の思いと、復興への祈りをこめて、多くの凧が大空を舞いました。



トピックス

日本最古の学問所「旧有備館及び庭園」の再建修理が進んでいます。

(大崎市)

仙台藩の学問所跡「旧有備館及び庭園」は、日本最古の学問所建築として国の史跡および名勝に指定されています。茅葺きの書院造の建物は震災により主屋を残して完全に倒壊しましたが、元の部材を最大限に生かしながら、再建修理が進められています。



▲ 地震により倒壊した有備館



再建修理の様子▶